

オリンピック通信 NO. 3

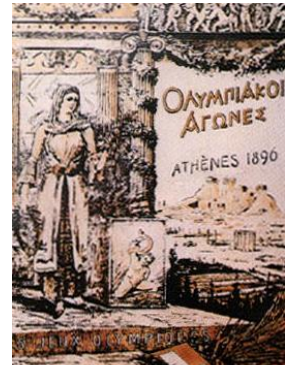
令和2年6月10日（水）
保健体育科 吉田 律輝

「近代オリンピックの変遷 ①」

今回はオリンピック第1～3回大会について紹介していきます。

・第1回大会（アテネ大会／1896年）

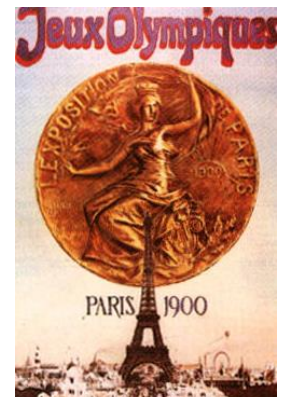
記念すべき第1回大会は、古代オリンピック発祥の地であるギリシャの都市アテネで開催されました。参加したのは、欧米の先進国14か国だけでした。選手は男子のみの241人で、古代オリンピックと同じように、女子禁制の大会でした。当時はまだ女性への人権意識が低い時代だったのです。行われた種目も少なく、陸上競技、水泳、ボート競技、体操競技、レスリング、射撃、フェンシング、自転車競技、テニスの計9種目でした。その中で人気種目だったのが陸上競技でした。11種目中9種目でアメリカ人選手が優勝したのですが、そのうちの一人、100mで優勝したトマス・バーグという選手は、ただ1人クラウチングスタートをしたことでも注目されました。当時は、オリンピックに出場する選手ですら全員がスタンディングスタート（立ったままで行うスタート）だったのには驚きですね！花形競技である陸上で、優勝者が出ないまま地元ギリシャは最終日を迎えました。最終種目であるマラソンには、25人が参加しましたが、そのうちの半分以上がギリシャ人だったそうです。結果は、スピリドン・ルイスというギリシャ人選手が2時間58分50秒で優勝しました。現在の世界記録が2時間1分39秒ですから、120年で約1時間も記録が縮まったということになります。ちなみに、この頃のマラソンは約40kmというざっくりした距離で行われていたようです…。



第1回大会のポスター

・第2回大会（パリ大会／1900年）

第2回大会は、クーベルタンの母国フランスのパリで行われました。第1回大会と比べ、種目数も参加人数も格段に増え、盛大に開催されました（16競技95種目が行われ、24の国と地域から997名が参加しました）。この年から女性選手の参加も認められるようになりましたが、22人とまだまだ少人数でした。盛大に行われた一方、パリでは同じ時期に万博も行われており、様々な混乱を招きました。例えば、3位以内の入賞者にはその場でメダルが渡されず、選手のもとに届いたのはなんと2年後だったそうです（笑）また、ボート競技のペアで優勝したオランダの選手はなんと、7歳と10歳だったのですが、運営がしっかりしておらず選手の名前は記録に残っていないそうです…。



第2回大会のポスター

・第3回大会（セントルイス大会／1904年）

第3回大会は、アメリカのセントルイスで開催されました。この大会で起きた有名な話を紹介します。

この年のマラソンは8月30日の猛暑の中行われました。アメリカ代表として出場していたフレッド・ローツという選手は、20km過ぎで力尽き、倒れ込んでしまいます。たまたま通りかかった車に乗せてもらいスタジアムに帰る途中、車の中で回復したローツは車を途中で降り、あたかも自分で走ってきたかのように1位でゴールしてしまったのです。結果的に、その不正行為はバレてしまい、歴史に汚名を残すこととなりました…。

次回は、引き続き近代オリンピックの歴史を振り返っていきましょう。お楽しみに！

【オリンピッククイズ！】

第1回大会で優勝者に渡されたメダルは何色でしょう？ 答えは次回号で→

前回の答え→

諸説あるようですが、古代ギリシャ人が太陰暦たいいんれきという暦こよみを使っていたからという説が有力なようです。現在使われている太陽暦の8年が、太陰暦の8年3カ月と等しいことから、古代ギリシャ人にとって8年という周期は特別なものであり、8年ごとに様々な祭典が行われました。それがのちに半分の4年周期になったようです。難しいですね…。